

豆を食いに出た絵馬（篠山町）

篠山城三代目の城主であった松平忠国が、明石城〈あかしじょう〉へ国替え〈くにがえ〉になる時、篠山町黒岡の春日神社〈かすがじんじゃ〉神社へ黒馬を描いた〈えがいた〉、たて一メートル五三センチ、横一メートル七九センチの絵馬を奉納〈ほうのう〉しました。狩野尚信〈かのうなおのぶ〉の作です。

ある日のことでした。黒岡の太郎兵衛〈たろべえ〉という人が、田のあぜに作っている豆が一夜のうちに食い荒されているのを見て、びっくり仰天〈ぎょうてん〉、「おかしいぞ。こんな所へよもや、いのししがくることもなかろうし。」と思って注意していま



したが、次の夜もまた荒されていました。よく見ると、畑に馬の足あとらしいものがついているので、「はあ、ひょっとしたら、これは、あの絵馬堂〈えまどう〉の馬が絵からぬけ出して、豆を食いに出たのかもしれない。」と思って、さっそく、その絵馬だけに金網〈かなあみ〉をはったら、ふしぎにも、それからは豆を食いあらすことがなかったということです。

今は、その絵馬の金網もはずされ新築された絵馬堂の中にかかげられて、多紀郡指定の文化財になっています。

